

氷川神社裏古墳(桶川市)

前方の舌状の台地先端に鳥居が見える



ここは氷川神社



こんな塩梅の台地上に氷川神社社殿が建ち、その裏手に古墳が所在すると云う



前方が氷川神社社殿





その裏手を右側から見たところ/小社が建ち、由緒書きが立っている/墳丘らしきマウンドは見当たらない/左手が氷川神社社殿



氷川神社 御由緒

桶川市上日出谷一三

御縁起（歴史）

上日出谷と下日出谷は、元は一村であったが、慶安三年（一六五〇）に当時この地を領していた牧野信成の死によって領地が分割された際上下二村に分かれたものと推測される。当社は、この上下の日出谷の境に位置し、『風土記稿』上日出谷村の項にも「村の鎮守なり、社辺松杉生茂れり、其囲み一丈余の古松あり、金松と云、由来は知らず、斧斤を加ふれば必災あり、下日出谷村知足院持」と載っている。ちなみに、この記事に見え「金松」は、本殿の後方にあった神木のことと思われるが、既に枯死しており、今では根株を残すのみである。

当社の創立の時期は明らかではないが、こうした江戸時代における境内の状況や、別当であった知足院は正応年間（一二八八・九三）創立の真言宗の古刹と伝えられることなどから、鎌倉時代末期から室町時代にかけての創立ではないかと思われる。また、本殿には表に「正一位氷川大明神幣帛」裏に「寛政七年（一七九五）八月三十日神祇管領卜部良具」と墨書された神璽宮が納められている。

台地の先端に位置し、南・西・東の三方を低地に囲まれた当社の社は、遠方からもよく望見できる。かつては鳥居の右手に「氷川様の池」と呼ばれる広さ一〇畳ほどの湧水池があり、渇水時には、新しい水がよく湧き出すようにと神職が祈願した後に村中総出で池の水を掻き出して雨乞いをしたが、これも台地上の天水場ゆえの苦勞話である。

御祭神と御神徳

素盞鳴尊・武運長久、厄除け、商売繁盛

御祭日

- 元旦祭（一月一日）
- 春祈禱（三月十五日）
- 祇園祭り（七月十四日）
- お日待（十月十五日）
- 新嘗祭（十一月二十八日）

氷川神社裏古墳(円墳)については記されていない

その更に裏手は、住宅が立ち並んでいる/左前方が氷川神社社殿/古墳は住宅開発により削平されてしまったのであろうか



参考ホームページ

http://www.asahi-net.or.jp/~fx3j-aid/kofun/saitama/15_okgw/oke.html

